

第3次東大阪市子ども読書活動推進計画（素案）に関する修正案

R5年3月 素案	修正案	修正理由
目次 第4章 (5) 社会変化に対応した読書活動の推進 ①コロナ禍における読書活動の推進	①コロナ禍における経験から	R5.5月コロナ対策の変化による
P.1 2 国・府の動向 国では、平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律（以下「推進法」という。）」が策定され、子どもの読書活動の推進に関する基本的な理念や、国や地方公共団体の責務等が定められました。この推進法に基づいて、平成14年に施策の基本方針と具体的な方策を示した「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定され、その後平成20年に第二次、平成25年に第三次、平成30年に第四次を策定し、施策の総合的かつ計画的な推進を図っています。 大阪府では推進法を踏まえ、平成15年に府における子どもの読書活動の推進に関する基本方針と重点的な施策を示した「大阪府子ども読書活動推進計画」が策定され、その後平成23年に第2次、平成28年に第3次、令和3年に第4次を策定しています。	国では、平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律（以下「推進法」という。）」が 制定 され、子どもの読書活動の推進に関する基本的な理念や、国や地方公共団体の責務等が定められました。この推進法に基づいて、平成14年に施策の基本方針と具体的な方策を示した「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定され、その後平成20年に第二次、平成25年に第三次、平成30年に第四次、 令和5年に第五次計画 を策定し、施策の総合的かつ計画的な推進を図っています。 大阪府では推進法を踏まえ、平成15年に府における子どもの読書活動の推進に関する基本方針と重点的な施策を示した「大阪府子ども読書活動推進計画」が策定され、その後平成23年に第2次、平成28年に第3次、令和3年に第4次計画を策定しています。	文言修正 国の第五次計画を記載
P.2 4 第3次東大阪市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方 本推進計画は、第2次推進計画で掲げている「子育て支援サービスや学校連携などを通して乳幼児期から東大阪市への愛着を育み、子どもたちの自主的な読書活動を推進する」という考え方を継承しつつ、インターネット利用の低年齢化やSNSの浸透、GIGAスクール構想導入、新型コロナウイルス感染症の影響など、子どもたちを取り巻く環境の変化に対応した推進計画とするため、基本的な考え方を以下のとおりとします。	4 第3次東大阪市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方 本推進計画は、 第2次東大阪市子ども読書活動推進計画 で掲げている「子育て支援サービスや学校連携などを通して乳幼児期から東大阪市への愛着を育み、子どもたちの自主的な読書活動を推進する」という考え方を継承しつつ、インターネット利用の低年齢化やSNSの浸透、GIGAスクール構想導入など、子どもたちを取り巻く環境の変化に対応した推進計画とするため、基本的な考え方を以下のとおりとします。	文言修正 R5.5月コロナ対策の変化による
(6) 社会変化に対応した読書活動の推進 コロナ禍においても工夫をしながら取組を進め、子どもたちの環境に合わせた情報通信機器の活用やSNSを利用した情報発信に努めます。	コロナ禍を教訓に、工夫をしながら取組を進め、子どもたちの環境に合わせた情報通信機器の活用やSNSを利用した情報発信に努めます。	R5.5月コロナ対策の変化による
P.3 第2章 第2次東大阪市子ども読書活動推進計画の成果と課題	第2次推進計画では、「本市のすべての子どもたちが読書の楽しさを知り、自主的に読書に取り組むこと」を計画の目的として取組を進めました。第2次推進計画の主な取組と成果・課題は次のとおりです。	導入部分に2次の目的等の文章を追加
P.3 ①家庭における読書活動の推進 今後も家庭における読み聞かせの大切さを伝え、いかに読書の習慣づけを行うかが重要であり、定例化してきている各イベントの見直しや「電子図書館」の活用も踏まえたコロナ禍での実施方法など、開催内容や手法を検討する必要があります。	今後も家庭における読み聞かせの大切さを伝え、いかに読書の習慣づけを行うかが重要であり、各イベントの見直しや、「電子図書館」の活用も踏まえた実施方法など、開催内容や手法を検討する必要があります。	文言整理 R5.5月コロナ対策の変化による
②地域における読書活動の推進 また、地域における読書活動の取組にも、新型コロナウイルス感染症拡大が大きな影響を与えており、今後も感染対策を講じながら、地域での読書活動を進める方策が求められます。	また、地域における読書活動の取組も、新型コロナウイルス感染症拡大により大きな影響を受けましたが、今後、日常を取り戻していく中で、地域での読書活動を活発化していく必要があります。	R5.5月コロナ対策の変化による

第3次東大阪市子ども読書活動推進計画（素案）に関する修正案

R5年3月 素案	修正案	修正理由
<p>P.4 (3) 幼稚園等における読書活動の推進 ①本に親しむための機会の提供・充実 幼稚園では、保護者やボランティアによる園児への読み聞かせを行ったり、絵本室（コーナー）を設けて、保護者や園児が絵本に親しめるように環境づくりを進めたりしています。コロナ禍において、保護者やボランティアによる読み聞かせの機会が減少しているなかで、引き続き絵本に親しむための機会を提供するために、おすすめ絵本の紹介や絵本室（コーナー）での展示や配置を工夫していくことが大切です。</p>	<p>(3) 幼稚園等における読書活動の推進 ①本に親しむための機会の提供・充実 幼稚園および幼稚園型認定こども園では、保護者やボランティアによる園児への読み聞かせを行ったり、絵本室（コーナー）を設けて、保護者や園児が絵本に親しめるように環境づくりを進めたりしています。絵本に親しむための機会を提供するために、おすすめ絵本の紹介や絵本室（コーナー）での展示や配置を工夫していくことが大切です。</p>	<p>幼稚園・こども園担当からの意見あり。 【要確認】この記述に変更して実状に合っているか？ ⇒5/30子ども読書会議にて吉本委員へ確認、差支えないとのこと。</p>
<p>P.5 ②読書環境の整備 すべての幼稚園で絵本室（コーナー）を設置し、園児が自由に本に触れることができる場所づくりを進めており、蔵書する絵本や紙芝居なども子どもたちの興味関心に応じた選書をするよう工夫をしています。 また、保護者に対しても保育参観等で親子と一緒に本に触れる時間を設けるなどの工夫をしていますが、コロナ禍における参観方法の検討や就労している保護者への配慮が必要です。</p>	<p>すべての幼稚園および幼稚園型認定こども園で絵本室（コーナー）を設置し、園児が自由に本に触れることができる場所づくりを進めており、蔵書する絵本や紙芝居なども子どもたちの興味関心に応じた選書をするよう工夫をしています。 また、保護者に対しても保育参観等で親子と一緒に本に触れる時間を設けるなどの工夫をしていますが、就労している保護者への配慮が必要です。</p>	<p>幼稚園・こども園担当からの意見あり。 【要確認】この記述に変更して実状に合っているか？ ⇒5/30子ども読書会議にて吉本委員へ確認、差支えないとのこと。</p>
<p>(4) 学校における読書活動の推進 ①読書指導の充実 小中学校では、「朝の読書活動」を継続しています。また、ブックトークや図書通信、様々な教科の授業において、創意工夫をしつつ本の紹介を行っています。しかし、コロナ禍において、朝の健康観察の実施や読書以外の学習の実施で「朝の読書活動」の時間が確保しづらい状況にいたり、教員の業務負担軽減が求められていたりしているなか、令和3年度に新たに配置された学校司書と学校が連携を図り、計画的に児童・生徒の読書環境を充実していく必要があります。</p>	<p>小中学校では、「朝の読書活動」を継続しています。また、ブックトークや図書通信、様々な教科の授業において、創意工夫をしつつ本の紹介を行っています。しかし、読書以外の学習の実施で「朝の読書活動」の時間が確保しづらい状況にあるほか、教員の業務負担軽減が求められており、令和3年度に新たに配置された学校司書には、学校教員と連携を図り、計画的に児童・生徒の読書環境を充実していく役割を期待するところです。</p>	<p>・コロナの記述を削除 ・「学校」でなく教育現場における「学校教員」との連携と明確化したい。</p>
<p>②学校図書館の充実 学校図書館では、これまで全小中学校に配置した司書教諭により資料の収集や展示の工夫など学校図書館の充実・整備を進めてきました。また、日々の図書館運営の補助的役割を担う図書館担当教員に対して研修を行い、知識や能力向上を図ってきました。 さらに令和3年度から新たにすべての小中学校に学校司書が配置されたことに伴い、学校図書館の「読書センター」としての機能の充実が進みました。今後、司書教諭や学校図書館担当教員との連携を図りつつ、児童・生徒の自由な読書活動や読書指導の場としての学校図書館運営の改善や情報収集・選択・活用能力の育成など「学習センター」「情報センター」としての機能も充実させていかなければなりません。</p>	<p>学校図書館では、これまで全小中学校に配置した司書教諭により資料の収集や展示の工夫など学校図書館の充実・整備を進めてきました。また、日々の図書館運営の補助的役割を担う図書館担当教員に対して研修を行い、知識や能力向上を図ってきました。 さらに令和3年度から新たにすべての小中学校に学校司書が配置されたことに伴い、学校図書館の「読書センター」としての機能の充実が進みました。今後、司書教諭や学校図書館担当教員との連携を図りつつ、児童・生徒の自由な読書活動や読書指導の場を確保することに加えて、「調べ学習」に必要な情報収集・選択・活用能力を育成する「学習センター」「情報センター」としての機能も充実させて、学校図書館の価値を高めていく必要があります。</p>	<p>「学習センター」「情報センター」の機能の目的を追記したい。</p>

第3次東大阪市子ども読書活動推進計画（素案）に関する修正案

R5年3月 素案	修正案	修正理由
<p>P. 6 (5) 図書館における読書活動の推進 ① 図書館運営の充実 図書館では、子どもが本と出会い、読書の楽しさを知るきっかけづくりとなるようなイベントや行事を定期的、あるいは季節ごとに実施しています。また、保健センターで実施の4か月児健診の際には、絵本のプレゼント、ボランティアによる絵本の読み聞かせを実施してきました。 インターネットが普及し、パソコンやスマートフォン等の情報通信機器を個人が持つ時代に合せ、図書館ウェブサイトの「こどものページ」の本の検索画面をひらがな表記にし、子どもたちが自分で好きな本を探しやすしたり、図書館に行かなくてもいつでもどこでも本が楽しめるインターネット上の図書館「電子図書館」サービスを開始したりしました。 さらには、図書館をより身近に感じてもらうために市内の中学校から職業体験学習の受け入れや出前講座として学校へ出向き「調べ学習講座」等を実施しています。 ただ、新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの開催や学校外での学習自体に制限がかかり、コロナ前と同じような規模での実施はできませんでした。また、ブックスタート事業においても読み聞かせができず、絵本の配布のみとなったため、ブックスタートの説明動画の二次元コードと一緒に配布して読み聞かせの大切さを伝えています。今後、ウイズコロナのなかで「電子図書館」の利用を通して図書館への興味を持ってもらったり、SNSも活用して学校や保健センター等との連携を取ったりしながら、時代に即した図書館運営の充実を図っていかねばなりません。</p>	<p>図書館では、子どもが本と出会い、読書の楽しさを知るきっかけづくりとなるようなイベントや行事を定期的、あるいは季節ごとに実施しています。また、保健センターで実施の4か月児健診の際には、絵本のプレゼント、ボランティアによる絵本の読み聞かせを実施してきました。 また、図書館ウェブサイトの「こどものページ」の本の検索画面をひらがな表記にすることで子どもたちが自分で好きな本を探しやすしたり、図書館に行かなくてもいつでもどこでも本を楽しめるインターネット上の電子図書館サービスを開始したりといった環境整備に努めています。 さらには、市内の中学校から職業体験学習の受け入れや、出前講座として「調べ学習講座」を実施し、書籍を中心とする情報収集のスキル向上に力を入れています。 引き続き、学校や保健センター等との連携を密にし、時代に即した図書館運営の充実を図っていかねばなりません。</p>	<p>ネット普及、個人が端末保有、は今さら感がある。 コロナ関連の記述は不要と判断。「ウイズコロナ」も今後は死語となる可能性あり。 運営内容に記述を絞る。</p>
<p>P. 7 ⑥ 職員の専門性の向上 司書をはじめとする図書館職員は、専門的な知識や技術を習得するため、新聞の書評や案内、出版社等の書誌広報を職員間で共有したり、各種セミナーや研修会に参加したりしています。 開催困難となった集合研修に代えて、主流となっているオンライン研修に積極的に参加したり、図書資料の検索や選書知識の向上を図る研修への参加機会が減ったなか、指定管理事業者内での社内研修をより活用したりして、引き続き図書館職員としての研鑽に努めていきます。</p>	<p>司書をはじめとする図書館職員は、専門的な知識や技術を習得するため、新聞の書評や案内、出版社等の書誌広報を職員間で共有し、各種セミナーや研修会に積極的に参加しています。 図書資料の検索や選書知識の向上を図る研修への参加や、指定管理事業者内での社内研修、新型コロナウイルス感染拡大期において実施されるようになったオンライン研修も活用し、引き続き図書館職員としての研鑽に努めていきます。</p>	<p>現時点における、今後に向けた記述に修正</p>
<p>P. 9 ※市政世論調査については、市政に関する市民の考え方を把握し、今後の市政運営の基礎資料を得ることを目的に市長事務局が実施（令和4年8月1日～8月22日）しています。</p>	<p>※市政世論調査については、市政に関する市民の考え方を把握し、今後の市政運営の基礎資料を得ることを目的に市長事務局が実施しています。（令和4年8月1日～8月22日）</p>	<p>このほうが見やすいと判断。</p>
<p>P. 10 ● 報告書の見方 ・ 回答結果の割合「%」は有効回答数に対して、それぞれの選択肢の回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式の質問であっても、表記のパーセント値の合計が100.0ちょうどにならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表のいずれにおいても同様です。 ・ 複数回答（複数の選択肢からあてはまるすべての選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答者の総数に対する、選択肢ごとの回答者数の割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。 ・ 「非該当」とあるものは、その設問の対象とならないものです。また、グラフ中において「未回答」とあるものは、回答が示されていないものです。</p>	<p>・ 回答結果の割合「%」は有効回答数に対して、それぞれの選択肢の回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式の質問であっても、表記のパーセント値の合計が100.0%にならない場合があります。これは、本報告書内の分析文、グラフ、表のいずれにおいても同様です。 ・ 複数回答（複数の選択肢からあてはまるすべての選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答者の総数に対する、選択肢ごとの回答者数の割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。 ・ 「非該当」は、その設問の対象とならないものです。また、グラフ中における「未回答」は、回答が示されていないものです。</p>	<p>文言整理</p>

第3次東大阪市子ども読書活動推進計画（素案）に関する修正案

R5年3月 素案	修正案	修正理由
<p>P.11</p> <p>・乳児期など子どもが赤ちゃんのころは、本を破いてしまったり衛生面を気にしたりして、家にある本や購入して本を用意することが多いため、出産やお誕生日に最適な本のブックリストの配付なども効果を生む可能性があります。また、幼児期になると本の扱いも理解できる年頃になり「本を借りる」という選択肢も出てくることから、前回調査時（H29）と比べて減少幅が大きい「保育所・幼稚園・こども園」での本の充実やコロナ禍でも安心して本を借りることができる対策を図っていく必要があります。</p>	<p>・乳児期など子どもが赤ちゃんのころは、本を破いてしまったり衛生面を気にしたりして、家にある本や購入して本を用意することが多いため、出産やお誕生日に最適な本のブックリストの配付なども効果を生む可能性があります。また、幼児期になると本の扱いも理解できるようになり、「本を借りる」という選択肢も出てくることから、前回調査時（H29）と比べて減少幅が大きい「保育所・幼稚園・こども園」での本の充実を図っていく必要があります。</p>	<p>文言整理</p> <p>R5.5月コロナ対策の変化による</p>
<p>P.12</p> <p>・わからないことが出てきた場合の調べ方について、小学校の高学年や中学生は、手軽に実行できるツール（インターネット）の利用が多く、7割を超えています。本や辞書を利用するとの回答は、小学校低学年で3割強、高学年で3割弱、中学生で2割弱となっており、あまり利用されていない状況です。インターネットの利用は、大人も同様に多いですが、子どもの頃に本や辞書を利用した調べ方を体験しており、本とインターネットの特性や違いを理解した上で利用しています。子どもたちに対しても、図書館で行っている「出前講座」などを利用し、本とインターネットの情報の質の違いを説明した上で、本や辞書を利用した「調べ方」を丁寧に伝え、本を使って調べることの楽しさを定着していく必要があります。</p>	<p>・わからないことが出てきた場合の調べ方について、小学校の高学年や中学生は、インターネットの利用が多く、7割を超えています。「本や辞書を利用する」との回答は、小学校低学年で3割強、高学年で3割弱、中学生で2割弱という状況です。大人も同様にインターネットを多く利用していますが、子どもの頃に本や辞書を利用した調べ方を体験しており、それぞれの特性や違いを理解した上で利用しています。子どもたちに対しても、図書館で行っている「出前講座」なども利用して、本とインターネットの情報の質の違いや、図書による「調べ方」を丁寧に教え、どちらも活用できるように体験させておく必要があります。</p>	<p>文言整理</p> <p>本で調べることは楽しさの追及ではない。当計画の目的に沿った記述とした。</p>
<p>P.13</p> <p>・児童コーナーの雰囲気や児童書の種類については、利用の多くを占める子育て世代で一定の評価を得ています。</p>	<p>・児童コーナーの雰囲気や児童書の種類については、利用の多くを占める子育て世代から一定の評価を得ています。</p>	<p>文言整理</p>
<p>・家庭で子どもと一緒に絵本を見たり読み聞かせをしたりする保護者は多いものの、その頻度は少なく、習慣化されているとは言えません。例えば就寝前の読み聞かせを推進することも習慣化につながる取組といえます。</p>	<p>・家庭で子どもと一緒に絵本を見たり読み聞かせをしたりする保護者は多いものの、その頻度は少なく、習慣化されているとは言えません。例えば就寝前の読み聞かせを推奨することも習慣化につながる取組といえます。</p>	<p>文言整理</p> <p>※「例えば就寝前～」はわざわざ記述する内容でしょうか？</p> <p>⇒5/30子ども読書会議にて一旦修正なしとなる。</p>
<p>・読み聞かせをする側も多様化しています。対象を限ることなく様々な機会・場所・時間で子ども読書の重要性を周知することで、読み聞かせも広がっていく可能性があります。</p>	<p>・読み聞かせをする側も多様化しています。対象を絞らず、様々な機会・場所・時間において子ども読書の重要性を広く周知することで、読み聞かせが子育てに関わる人々の日常習慣となってくる可能性が広がります。</p>	<p>より明確に記述</p>
<p>P.15</p> <p>（5）市政世論調査</p> <p>・過去1か月間に全く読書をしなかったと回答した方にその理由を聞くと、「読書する時間がない」との物理的な理由が最も多く、潜在的に時間さえあれば本を読む人がいるということがわかります。また、回答上位に「本を読むのがめんどろ」や「読みたいと思う本がない」という理由が挙げられており、このような方は、魅力的な本、興味や関心を引く本があれば、読書につながる事が考えられるため、さまざまなジャンルの本の情報を提供することが大切です。</p>	<p>・過去1か月間に全く読書をしなかったと回答した方にその理由を聞くと、「読書する時間がない」との理由が最も多く、潜在的に時間さえあれば本を読む人がいるということがわかります。また、回答上位に「本を読むのがめんどろ」や「読みたいと思う本がない」という理由が挙げられており、このような方は、魅力的な本、興味を引く本に関する情報を得られれば、読書につながる事が考えられるため、さまざまなジャンルの本の情報を提供することが大切です。</p>	<p>文言整理</p> <p>提供するの本ではなく情報なので。</p>
<p>・子どもがもっと本を読むようになるための取組として、読書や読み聞かせの時間を確保することの次に、図書館や学校での取組に関する回答が続いていることから、幅広い年代、幅広い層から、図書館や学校でのさまざまな取組が重要視されており、市としても積極的に取組んでいく必要があると考えられます。</p>	<p>・子どもがもっと本を読むようになるための取組として、読書や読み聞かせの時間を確保することの次に、図書館や学校での取組に関する回答が続いていることから、幅広い年代、幅広い層から、図書館や学校でのさまざまな取組が重要視されており、市としても積極的に取組んでいく必要があります。</p>	<p>文言整理</p>

第3次東大阪市子ども読書活動推進計画（素案）に関する修正案

R5年3月 素案	修正案	修正理由
P.16 (5) 社会変化に対応した読書活動の推進 ①コロナ禍における読書活動の推進	①コロナ禍における経験から	R5.5月コロナ対策の変化による
P.18 ③保護者への働きかけ 多くの保護者は、子どもに読み聞かせをしたり一緒に絵本を読んだりすることの必要性や、子ども自身が絵本を読むことの重要性はわかっていますが、日々の忙しさに追われている現状では、読み聞かせなどに割く時間を確保するのが難しい状況です。 また、「どういうふうに読み聞かせをすればいいかわからない」、「どんな本を読ませればいいかわからない」といった声も聞かれます。 保護者や身近な大人に対して、絵本を通じて子どもと触れ合うひと時の大切さを粘り強く伝えながら、読み聞かせの仕方や子どもが喜ぶ絵本の情報などを継続して発信していくことで、まずは大人が絵本を身近に楽しいと感じ、それを子どもたちに伝えたいと思えるような働きかけを実施していきます。	③保護者への働きかけ 多くの保護者は、子どもに読み聞かせをしたり一緒に絵本を読んだりすることの必要性や、子ども自身が絵本を読むことの重要性はわかっているながらも、日々の忙しさに追われて時間を確保するのが難しい、また、「どういうふうに読み聞かせをすればいいかわからない」、「どんな本を読ませればいいかわからない」といった声も聞かれます。 保護者や身近な大人に対して、絵本を通じて子どもと触れ合うひと時の大切さを粘り強く伝えながら、読み聞かせの仕方や子どもが喜ぶ絵本の情報などを継続して発信していくことで、まずは大人が絵本を「楽しい」と感じ、それを「子どもに伝えたい」と思えるように働きかけを続けていきます。	表現に違和感を覚えるため。 文言整理
(3) 学校における読書活動の推進 ①読書指導の充実 現在小中学校では、「朝の読書活動」を実施しており、子どもたちは紙の本や「ひがしおおさか電子図書館」を活用して電子の本から、思い思いの1冊を選び、読み進めています。短い時間でも毎週繰り返されるこの活動は、子どもたち一人ひとりが興味を持った本を読める時間であり、読書活動習慣へとつながる貴重な取組となっています。 学校で配付されたタブレットを用いて、いつでも簡単に電子の本を読むことができる電子図書館サービスは、学校や家庭での読書活動に大変有効です。電子図書館サービスの活用を始め、学校での取組が家庭での読書につながるよう、引き続き読書活動の定着に努めます。 また、学校司書と連携して、各教科、総合や道徳といった学習にいかすことができる効果的な図書の紹介、読み聞かせや必要な図書の選書等を行い、子どもたちが適切な図書を活用できるような読書指導を実施していきます。	(3) 学校における読書活動の推進 ①読書指導の充実 子どもには、成長段階に応じて、適切な図書から情報を得て、適切に理解するリテラシーと、その情報を活用するスキルの育成が必要であり、子どもの自主的な読書活動を推進する目的は、まさにその点にあると考えています。 現在小中学校では、「朝の読書活動」を実施しており、子どもたちは紙の本や「ひがしおおさか電子図書館」から思い思いの1冊を選び、読み進めています。短い時間でも毎週繰り返されるこの活動は、子どもたち一人ひとりが興味を持った本を読める時間であり、読書習慣の定着へとつながる有効な取組と考えています。 学校で配付されたタブレットを用いて、いつでも簡単に電子版の本を読むことができる電子図書館サービスは、学校や家庭での読書活動に効果を発揮しています。引き続き電子図書館サービスの蔵書内容の工夫を進め、学校での活用促進に努めます。 また、学校司書と連携して、教員の要望を取り入れた選書を行うことに加えて、子どもたちが学習に活かすことができる図書の紹介を行い、適切に活用できるように読書指導を実施していきます。	図書館協議会 山本委員の意見を反映。「子どもには、適切な図書から情報を得るためのリテラシー、スキルの育成が必要。読書活動推進の明確な目標を定めて、図書館と学校図書館との連携について具体的な方策を構築していくような計画内容とされたい。」

第3次東大阪市子ども読書活動推進計画（素案）に関する修正案

R5年3月 素案	修正案	修正理由
<p>P. 19 ②学校図書館の充実 学校図書館は、単に本を収集し、整理し、保存して貸出だけでなく、子どもたちの自由な創造力と豊かな感情を育むための読書活動や読書指導の場としての「読書センター」機能、子どもたちの学習活動を支援し、授業内容を豊かなものにする「学習センター」機能、子どもたちや教職員の情報ニーズに対応し、子どもたちの調べる力や多くの情報から選ぶ力、それを活用する力を養うための「情報センター」機能を有しています。 また、学校図書館は、この3つの役割以外にも子どもたちが安心して集う「やすらぎの場」であることが望まれます。子どもたちの、物事に興味を持ち、深く知ろうとする追求心や深い知識を得て原因を解明したいという探究心に寄り添い、答えを導き出す手伝いをしてくれる学校司書や司書教諭、図書館司書の存在はとても重要です。 学校図書館として望まれる様々な機能を効果的に果たすために、学校図書館を居心地がよく新たな本と出会う楽しみな場所に整えたり、子どもが喜ぶ、あるいはためになる選書を心がけながら蔵書を増やしたりするなど、物理的なハード面と人材や技術、意識や情報といったソフト面との両方の環境づくりが必要です。</p>	<p>学校図書館は、単に本を貸し出す場ではなく、子どもたちの自由な創造力と豊かな感情を育む読書指導の場としての「読書センター」機能を備えるものです。さらに、学習活動を支援し、授業の効果を豊かなものにする「学習センター」機能、子どもたちや教職員の情報ニーズに対応し、子どもたちの調べる力や多くの情報を選別し、活用する力を養うための「情報センター」機能の強化を目指すべきです。 また、学校図書館はこれらの役割以外にも、子どもたちが気軽に集う「やすらぎの場」であることが望まれます。子どもたちの、物事に興味を持ち、「もっと知りたい」という探究心に寄り添い、答えを導き出す手伝いをしてくれる学校司書や司書教諭の存在はとても重要です。 学校図書館として望まれる様々な機能を効果的に果たすために、学校図書館を居心地がよく新たな本と出会う楽しみな場所に整えたり、子どもが喜ぶ、あるいはためになる選書を心がけながら蔵書を増やしたりするなど、施設面と、人材や技術、意識や情報といった人的サービス面との両方の環境づくりが必要です。 (案) ②学校図書館の充実 に次のとおり追記 これら学校図書館の環境整備と機能充実に向けては、利用する児童・生徒の意見・要望を取り入れることも大事です。今後の学校図書館の運営にあたって児童・生徒からの、図書館利用に関する声を受け止める、開かれた環境をアピールしていく必要があります。 学校図書館は、単に本を貸し出す場ではなく、子どもたちの豊かな感情と創造力を育む読書指導の場としての「読書センター」機能を備えるものです。子どもたちの、物事に興味を持ち、「もっと知りたい」という探究心に寄り添い、答えを導き出す手伝いをしてくれる存在として、学校司書や司書教諭の役割はとても重要です。 しかし、その先の目標として、学習活動を支援し、授業の効果を豊かなものにする「学習センター」機能、子どもたちや教職員の情報ニーズに対応し、子どもたちの調べる力や多くの情報を選別し、活用する力を養うための「情報センター」機能の強化を目指すべきです。 一方で、学校図書館は子どもたちが気軽に集える「やすらぎの場」であることも期待されます。様々な機能を実現していくために、居心地がよく、新たな本と出会う楽しみな場所に整えたり、子どもが喜ぶ、あるいはニーズに応え得る選書を心がけるなど、施設面と、人材や技術、意識や情報といった人的サービス面との両方の環境づくりが必要です。 また、これら学校図書館の環境整備と機能充実に向けては、利用する児童・生徒の意見・要望を取り入れることも大事です。今後の学校図書館の運営にあたり、児童・生徒からの図書館利用に関する声を受け止める、開かれた環境をアピールしていく必要があります。</p>	<p>現時点では「学習センター」「情報センター」は未達成の目標のはず。 修飾語が多すぎる。 図書館司書は少し遠い。 より明確に記述 図書館協議会 川原副委員長の意見を反映。「中高生に関する施策がない。意見・要望を聞く機会をつくれないか」 統合案 5/29初谷委員長面談時、子どもたちの記載を、「児童・生徒」に変更するよう指示あり。</p>

第3次東大阪市子ども読書活動推進計画（素案）に関する修正案

R5年3月 素案	修正案	修正理由
<p>P. 20 ③学校図書館のネットワーク化 各学校図書館には、現在蔵書管理システムが導入されています。このシステムを上手く活用して、古くなった本の廃棄や新しい本の購入を計画的に実施し、本の循環に努めます。 また、学校図書館に置いてある本の選書や配架、蔵書数は各学校によって異なり、さらには、学校図書館自体の大きさも様々であるため、読書活動を推進するための十分な書架スペースや読書スペースが確保されていない学校もあります。 これらを解決する有効な手段の一つとして、学校図書館のネットワーク化が重要です。各学校に配置された学校司書の交流・情報交換や市立図書館と上手く連携を図りながらの専門的知識の活用や情報共有、有効なサービスの利用など、学校間、あるいは市立図書館とのネットワークの推進を図ります。</p>	<p>各学校図書館に導入されている蔵書管理システムを上手く活用して、古くなった本の廃棄や新しい本の購入を計画的に実施し、本の循環に努めます。 また、学校図書館に置いてある本の選書や配架、蔵書数は各学校によって異なり、さらには、学校図書館自体の大きさも様々であるため、読書活動を推進するための十分な書架スペースや読書スペースが確保されていない学校もあります。 これらを解決する有効な手段の一つとして、学校図書館のネットワーク化が重要です。各学校に配置された学校司書間の交流・情報交換や、市立図書館との連携による専門的知識の活用や情報共有、有効なサービスの利用など、学校間および市立図書館とのネットワークの活発化を図ります。</p>	<p>文言整理</p>
<p>P. 20 (4) 図書館における読書活動の推進 ①図書館運営の充実 ユネスコ公共図書館宣言（2022年）では、公共図書館の使命として挙げられた項目の中に「生まれてから大人になるまで子供たちの読書習慣を育成し、それを強化する。」との記載があります。子どもが誕生し、初めて本と出会って本の楽しさを知り、さらに読書を通じて豊かな知識を得て、自身の将来や希望を見出したり、果てしなく広がる世界を感じ得たりすることは、子供の成長過程において、大切なことの一つです。図書館として、子どもたちに読書の楽しさを知ってもらい、様々な世界とつながる手段と機会を与え、読書を習慣として大人になっても引き続き知識を得たり人生を豊かにしたりすることは、生涯学習の一環でもあります。 図書館ではこの使命を果たすため、読み聞かせを行ったり、読書の大切さやおすすめ絵本の情報などを発信したりするなど、保護者に対して本に触れ合う機会や読書のきっかけづくりとなるようなアプローチを行っていきます。また、子どもの興味・関心を引く選書や展示の工夫、読み聞かせやおはなし会等、様々なイベントや行事を通じて、子どもたちが図書館に親しみ、読書の楽しさや魅力を発見できるよう取組を進め、その情報発信にも力を入れていきます。 また、図書館が身近にない子どもたちやその保護者についても電子図書館サービスや電子申請サービスを推進し、移動図書館による圖書の貸出サービスを行う等、子どもたちに芽吹いた読書が楽しいという気持ちが大人になっても継続し、より多くの子どもが読書に親しむことができるような機会の充実に努めていきます。</p>	<p>①図書館運営の充実 ユネスコ公共図書館宣言（2022年）では、公共図書館の使命として掲げた項目の中に「生まれてから大人になるまで子供たちの読書習慣を育成し、それを強化する。」とあります。子どもが誕生し、初めて本と出会って本の楽しさを知り、さらに読書を通じて豊かな知識を得て、自身の将来や希望を見出すことは、子供の成長過程において大切なことです。大人になっても読書を習慣として知識を探究し、人生をより豊かにすることは、生涯学習にもつながります。 図書館ではこの使命を果たすため、読み聞かせを行ったり、読書の大切さやおすすめ絵本の情報などを発信したりするなど、保護者に対して本に触れ合う機会や読書のきっかけづくりとなるようなアプローチを行っていきます。さらに、子どもの興味・関心を引く選書や展示の工夫、読み聞かせやおはなし会等、様々なイベントや行事を通じて、子どもたちが図書館に親しみ、読書の楽しさや魅力を発見できるよう取組と、その情報発信にも力を入れていきます。 また、図書館が身近にない子どもたちやその保護者についても、移動図書館による貸出サービスのほか、電子図書館サービスや電子申請サービスの利用推奨など、子どもたちに芽吹いた「読書が楽しい」という気持ちを大切に、より多くの子どもが読書に親しむことができる機会の充実に努めていきます。</p>	<p>文言整理 簡略化 文章が一貫していないため。</p>
<p>②図書館資料の充実 図書館には、絵本や図鑑、漫画、伝記など、様々な本が取り揃えられています。また、図書館では、子どもたちが喜んで本を手取る姿を想像しながら、子どもたちに人気の本や、年齢に合わせた本、読んでほしいおすすめ本などを用意し、子どもと本の出会いを提供しています。 図書館スタッフは、子どもたちが読みたい本や知りたいことへの答えを一緒に探す手伝いをし、子どもにどんな絵本を読み聞かせたり読ませたりすればいいか迷う保護者に対しては、月齢に合った子どもが興味・関心を引く絵本を紹介するほか、子どもの発達段階に応じた絵本や児童書の充実に努めています。併せて、電子図書館サービスでの児童書の充実も図っています。</p>	<p>図書館には、絵本や図鑑、漫画、伝記など、様々な本が取り揃えられています。また、図書館では、子どもたちが喜んで本を手取る姿を想像しながら、子どもたちに人気の本や、年齢に合わせた本、読んでほしいおすすめ本などを用意し、子どもと本の出会いを提供しています。 図書館スタッフは、子どもたちが読みたい本や知りたいことへの答えを一緒に探す手伝いをし、子どもにどんな絵本を読み聞かせたり読ませたりすればいいか迷う保護者に対しては、月齢に合った絵本を紹介できるように、電子図書館サービスも含めて子どもの成長段階に応じた児童書の蔵書充実に努めています。</p>	<p>文言整理</p>

第3次東大阪市子ども読書活動推進計画（素案）に関する修正案

R5年3月 素案	修正案	修正理由
<p>P. 21</p> <p>③支援の必要がある子どもへの読書活動の推進</p> <p>図書館は全ての子どもたちにとって、平等に読書に親しむ機会や情報を提供する場ではなくてはいけません。全ての子どもたちが本と出会い、読書の楽しさを知り、知識や情報を得ることができるよう環境を整えていく必要があります。また、支援を必要とする子どもたちが、適切な支援を受けられるように支援者に対する情報提供も重要です。</p> <p>図書館では、関係機関や関係所属、団体等と連携し、全ての子どもたちの読書活動を推進していきます。</p>	<p>図書館は全ての子どもたちにとって、平等に読書に親しむ機会や情報を提供する場であるべきです。全ての子どもたちが本と出会い、読書の楽しさを知り、知識や情報を得ることができるよう環境を整えていく必要があります。また、支援を必要とする子どもたちが、適切な支援を受けられるように支援者に対する情報提供も重要です。</p> <p>図書館では、関係機関や関係所属、団体等と連携し、全ての子どもたちの読書活動を推進していきます。</p>	<p>文言整理</p>
<p>P. 22</p> <p>⑤ボランティア団体との連携</p> <p>子ども読書の推進は、市の取組に加え、地域ボランティア団体の支援や取組が欠かせないものとなっています。子どもと本の橋渡しである読書ボランティアの存在は大きく、その役割も重要です。長く続いたコロナ禍において、ボランティア団体自体、あるいは活動規模が縮小する中で、いかに地域ボランティア団体と連携を図り、活動への支援及びボランティアの養成や確保に努めるかが課題となっています。</p>	<p>子ども読書の推進は、市の取組に加え、地域ボランティア団体の取組が欠かせないものとなっています。子どもと本の橋渡しである読書ボランティアの存在は大きく、その役割も重要です。長く続いたコロナ禍において、ボランティア団体の活動規模が縮小を余儀なくされましたが、今後は地域ボランティア団体との連携力を盛り返し、ボランティアの確保に努める必要があります。</p>	<p>「団体の支援」とは？</p> <p>R5.5月コロナ対策の変化による</p>
<p>P. 23</p> <p>(5) 社会変化に対応した読書活動の推進</p> <p>①コロナ禍における読書活動の推進</p> <p>令和元（2019）年末頃から世界へと広がり始めた感染症は、私たちがこれまで経験したことのないほど、社会に大きな影響を与えました。</p> <p>子どもたちを取り巻く環境においても、不要不急の外出を控える要請がなされ、学校の臨時休校や図書館をはじめとする多くの公共施設が休館し、読書に関する様々なイベントや行事も中止や縮小、また形を変えての実施を余儀なくされ、子どもの読書活動自体も変化せざるを得ない状況となりました。</p> <p>私たちはこの経験をいかし、どのような状況下においても子どもたちの読書活動を後退させることのないよう、様々な工夫を凝らして、取組を進めていく必要があります。</p>	<p>①コロナ禍における経験から</p> <p>令和元（2019）年末頃から世界へと広がり始めた新型コロナウイルス感染症は、私たちがこれまで経験したことのないほど、社会に大きな影響を与えました。</p> <p>子どもたちを取り巻く環境においても、不要不急の外出を控える要請がなされ、学校の臨時休校や図書館をはじめとする多くの公共施設が休館し、読書に関する様々なイベントや行事も中止や縮小、また形を変えての実施を余儀なくされる中、子どもの読書活動推進も停滞感を否めない状況となりました。</p> <p>令和5（2023）年5月8日に法律上の位置付けが5類感染症に変更され、日常生活は元に戻りつつありますが、私たちはこの経験を活かし、どのような状況下においても子どもたちの読書活動を後退させることのないよう、様々な工夫を凝らした取組を進めていく必要があります。</p>	<p>R5.5月コロナ対策の変化による</p> <p>文言整理</p> <p>5/30子ども読書会議にて田谷委員より「感染状況の収束により、」の文言は削除すべきとの意見あり。</p>
<p>②情報通信機器を活用した読書活動の推進</p> <p>ICT（情報通信技術）の発展・普及により、個人がパソコンやスマートフォンを持つ時代となり、子どもたちを取り巻く環境においてもその流れにあまり差はありません。</p> <p>学校では一人一台タブレットを用いての学習が展開され、朝の読書活動では、子どもたちが読みたい本を紙だけでなく電子からも自由に選択しています。また、日常生活においてもSNS（ツイッター、フェイスブック、ライン等）を介して直接情報を得たり、友達と情報を交換したりしており、情報収集手段が多様化しています。このような社会の流れの中では、ICTを積極的に活用した情報発信や読書機会の提供が、必要不可欠です。</p> <p>一方、本計画策定にあたり実施した子ども読書に関するアンケートの結果をみると必要な情報が必要とする対象者へ上手く届いていないことがあることもわかりました。このことから情報発信を行う際は、伝えたい対象者によって手段やタイミング、回数を検討し、効率的、効果的な情報発信を行う必要があります。</p>	<p>ICT（情報通信技術）の発展・普及により、個人がパソコンやスマートフォンを持つ時代となり、子どもたちを取り巻く環境においてもその流れは同様です。</p> <p>学校ではタブレット端末機を用いての学習が展開され、朝の読書活動では、児童・生徒が読みたい本を紙書籍のほか電子書籍からも自由に選択しています。また、日常生活においてもSNSを介して直接情報を得たり、友達と情報を交換したりしており、情報収集手段が多様化しています。このような社会の流れの中では、ICTを積極的に活用した情報発信や読書機会の提供が、必要不可欠です。</p> <p>一方、本計画策定にあたり実施した子ども読書に関するアンケートの結果をみると、市が発信する情報が必要とする対象者へ上手く届いていないことがあることもわかりました。このことから情報発信を行う際は、伝えたい対象者によって手段やタイミング、回数を検討し、効率的、効果的な情報発信を行う必要があります。</p>	<p>文言整理</p> <p>ここで「一人一台タブレット」という通称は不要では？</p> <p>⇒5/30子ども読書会議にて吉本委員へ確認、この記載で差支えないとのこと。</p> <p>「必要な情報」とは？</p> <p>子どもたちの記載を、「児童・生徒」に変更</p>

第3次東大阪市子ども読書活動推進計画（素案）に関する修正案

R5年3月 素案	修正案	修正理由
P.24 1 推進体制 子どもの読書活動に関わる関係部局の課長等を委員とする「東大阪市子ども読書活動推進会議」を子どもの読書活動を着実に推進する体制の核として位置付け、本推進計画を進めていきます。また、計画推進のため関係部局、幅広い市民・企業や大学・ボランティア団体等が連携をし、協力体制の強化に努めることで、より効果的な計画の推進を図ります。	子どもの読書活動に関わる関係部局の課長等を委員とする「東大阪市子ども読書活動推進会議」を子どもの読書活動を着実に推進する体制の核として位置付け、本推進計画を進めていきます。計画推進にあたっては、関係部局、ボランティア団体等の協力体制の強化に努めることで、より効果的な計画の推進を図ります。	「幅広い市民・企業や大学」の連携は現実的ではないと考えるため。